

## 「社員教育こそ、社長の最大の仕事」

人生の大半を『仕事』に使うとしたら、仕事こそ人生そのものです。少なくとも仕事が、豊かな人生を創る基盤でなければ真剣に取り組む価値がありません。

社長は、日々の仕事の中で、社員さんの人間的成長を願い、社員さんが素晴らしい人生を満喫できるよう取り組んでおられると存じます。

社員さんをして、この社長に付いて行こうと、惚れこんでくれる程の、熱意と誠意と創意が社長になれば、我社の発展成長はあり得ません。

まずは、社員さんの心のコップを上向けること。そして、社長の熱い思いに共鳴し、燃えてくれる仲間を、何人創るかで我社の発展や将来が決まります。

この「社員教育」の中で、『人間学』は、必ず、社長が担当することです。

この重要な“経営の核心”を、外部のコンサルタントに委任したり、外部研修に参加させたりしては、社長の深い愛情も、強い信念も共有できません。

なぜなら、我社で、我社をダントツ・圧倒的に愛し、我社の発展に命を懸けている人間で、社長を超える熱い人間はいないからです。

リーダーとしての社員さんには、『人間学』を中心に、その他の社員さんには、我社に必要な知識・技術・ノウハウ・資格等と、一般的な教養『リベラル・アーツ』を教えることです。技術、資格等は外部の専門家に任せてもいいでしょう。

コツコツと、三年、五年、十年、継続・反復し、社長が一所懸命に説くことです。非常に迂遠に思えます。社員教育に速成は禁物です。

派手さはありませんが、確実に、間違いなく人は育ってくれます。その社員さんこそが、我社の財産です。他社を圧倒する最高の財産です。

超一流の企業を創った人たちは、例外なく、このことに相当なエネルギーと時間を使ってこられました。残念ながら講演を聴く側の社長が、テクニックやノウハウを知りたがり、この本質的な、根本的なことを迂闊にも見落としているのです。

社員さんに教えるのは『人間学』が必要です。一方、教える側の社長自身は、実は、これでは足りません。更にその上の学問があります。それが『帝王学』です。

トップリーダーには、トップリーダーのみが学び、身に付けるべき学問があるのです。最終デシジョン・メイキングとして、誰にも頼れない場面に、何度も何度も出逢うのが社長です。しかも、正しい決断を、瞬時に求められるのです。

この『帝王学』は、自分で学ぶか、師匠を見つけて教えてもらうことです。経営には経験や、体験は非常に重要ですが、残念ながら、これでは片手落ちなのです。

社長の為の『帝王学』を、秋から毎月一回、一年間解説して参ります。請う、ご期待。



### 今月のポイント

リーダーには、人間学、

トップリーダーには、帝王学。